

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立日吉小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	西区
学 校 名	大阪市立日吉小学校
学 校 長 名	城 牆 雅 一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立日吉小学校では、第6学年 167名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立日吉小学校の結果概要

国語・算数ともに全国及び大阪府平均を上回る結果となった。国語は全国平均を1.1ポイント上回り、算数は全国平均を6.6ポイント上回った。特に算数では上位層の割合が高く、12問以上正答した児童の割合は42.0%となり、全国（31.1%）を大きく上回っており、基礎的・基本的な内容の定着が進んでいることがうかがえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

- ・「話すこと・聞くこと」（67.5%）、「読むこと」（70.1%）は全国平均を上回っている。
- ・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」問題では80.8%と高い正答率を示している。
- ・漢字の活用や文章の特徴を捉える問題では全国平均を上回り、基礎的な言語能力が身に付いている。
- ・「引用して自分の考えが伝わるように書く」問題（30.5%）や漢字「不思議」の記述問題（35.9%）に課題がみられる。
- ・情報と情報との関係を捉え、根拠を明確にして文章を構成する力のさらなる向上が必要である。

【算数】

- ・全ての領域で全国平均を上回った。特に「数と計算」「図形」「測定」の領域で良好な結果であった。
- ・「立方体の体積」「割合」「概数」「小数」など基礎的・基本的な知識や技能に関する問題で全国平均を大きく上回った。
- ・思考力を要する記述問題においても全国平均を上回り、自分の考えを数学的に説明する力が育っている。
- ・「単位量当たりの大きさの意味を理解し判断する問題」（35.9%）や、「割合を表す図の読み取り」（42.5%）など、数量関係を基に判断する問題に課題が見られた。
- ・データを読み取り、根拠を示して説明する場面でさらに力を伸ばす必要がある。

質問調査より

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的な回答は全国を上回っており、自己肯定感が育っている児童が多いことがわかる。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても、肯定的な回答は全国を上回っており、学校でのサポートについても良い結果であった。

一方で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」について「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童の割合は19%と全国よりも大きく、学校の教育活動をさらに充実させる必要がある。

今後の取組（アクションプラン）

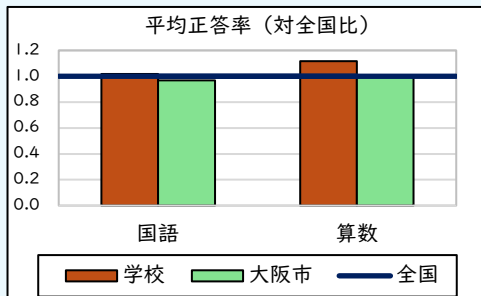
今年度より、研究目標を「思考の可視化を通じた効果的なICT活用～児童の学びを支え、主体的に取り組む力を育成する授業デザイン～」とした。昨年度までの国語科の研究で培った対話の力や根拠を明確にして自分の考えを表現する力をもとにして、ICTを効果的に活用することで、表現の幅を広げ、協働的な学びへとつなげることをめざす。文章を書くことに苦手意識をもつ児童にも、他者参照が容易にできるICTの利点を生かすことで、自分の考えを書く場面を増やしていく。また、国語以外の教科においても、自分の考えをまとめて伝える場面を増やしていく。

学校生活全般については、自己肯定感が高く、先生との関係に満足している児童が多い。今後も、「分からないときに教えてくれる」「困ったときに相談できる」関係を維持発展させることで、学校・学級が、より多くの児童にとって安心できる居場所となるようにしたい。そして、学級活動等で自分のよさや友だちのよさに気付く活動を行うことで自己肯定感のさらなる向上をめざしていく。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

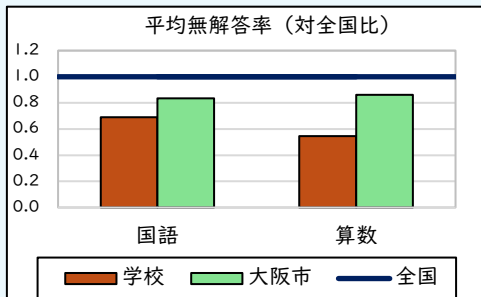
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	62	63
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



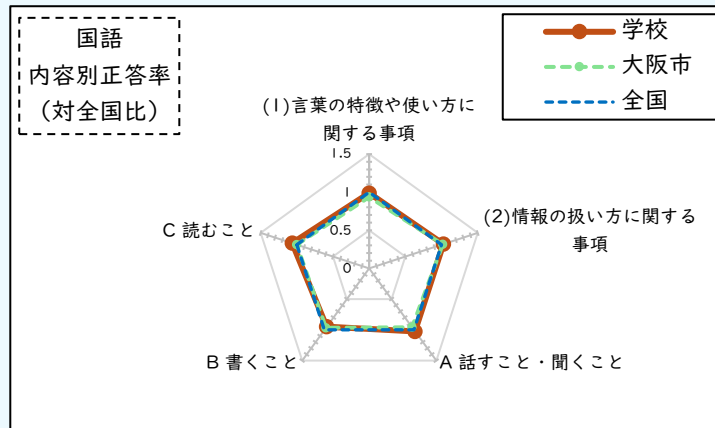
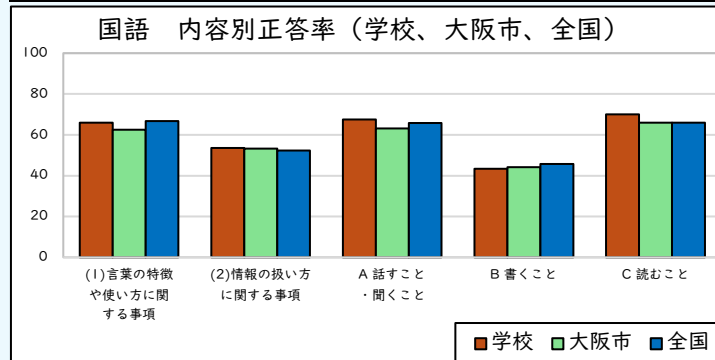
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	2.4	1.8
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	66.0	62.5	66.8
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	53.6	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	67.5	63.1	65.8
B 書くこと	2	43.4	44.2	45.7
C 読むこと	2	70.1	66.0	65.9



【算数】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	67.4	61.2	61.1
B 図形	4	63.3	54.5	55.3
C 測定	1	83.2	77.5	78.1
C 変化と関係	3	47.3	40.3	41.1
D データの活用	4	52.8	48.8	48.6

